

【PRESS RELEASE】

那須どうぶつ王国にて中央アルプスからやってきたライチョウ4羽の
産卵が始まりましたのでお知らせいたします

那須どうぶつ王国は、環境省と(公社)日本動物園水族館協会が取り組む「ライチョウ保護増殖事業」に参画しており、中央アルプスにおける個体群復活事業に協力しています。中央アルプスより令和3年8月に那須どうぶつ王国に移送したメス個体の産卵が確認されましたので、お知らせいたします。血統登録番号(以下、N)N11(オス)と N129(メス)・N131(メス)の組み合わせと長野市茶臼山動物園(長野県長野市)と今年初めにオス同士の個体を交換した N135(オス)と N128(メス)・N132(メス)の組み合わせで 5月6日より同居を開始させました。初めて交尾が確認されたのは5月18日で、それ以降全ての組み合わせで複数回の交尾を確認しています。5月25日より巢内に長時間留まる時間が長くなり、6月6日までに4羽とも産卵しているのを確認しています。巢内にカメラを設置しているため、巢内にいる時間や行動などから産卵した日時を推測することはできますが、深さ 15cm ほどの穴の中に産卵し、ハイマツ等の巢材できれいに穴を覆うため正確な産卵数は確認できていません。また、6月3日以降は、メスの産卵数や同居時の様子等から慎重に判断し、同居を順次終了しています。産卵開始が早い個体ではまもなく抱卵が始まると思われそうですが、順調にふ化、育雛と進めば今年夏頃には、3家族を中央アルプスへ野生復帰をする予定となっています。

野生下での営巣環境を再現するために、ハイマツの枝葉や枯葉を使用し、野生ライチョウの巣を再現したものを、4月30日にそれぞれのメス部屋に設置しました。今年度は、那須どうぶつ王国のほかに、長野市茶臼山動物園でライチョウ野生復帰を想定した域外繁殖に取り組んでいます。

- 繁殖組み合わせ情報:① オス N11(2016年6月26日生まれ・保険個体)
1-1 メス N129(2021年7月5~6日生まれ・中央アルプスより移送)
1-2 メス N131(2021年7月5~6日生まれ・中央アルプスより移送)
- ② オス N135(2021年7月5~6日生まれ・中央アルプスから茶臼山動物園に移送)
2-3 メス N128(2021年7月5~6日生まれ・中央アルプスより移送)
2-4 メス N132(2021年7月5~6日生まれ・中央アルプスより移送) 計4つがい

- 4月12日につがいのお見合いを開始しました。
- 5月6日より同居を開始しました。

*画像や動画につきましては、提供いたしますので、ご連絡ください。



那須どうぶつ王国
広報担当 宮地さくら
TEL0287-77-1110
携帯 090-8870-3508